



## 金融緩和下でも伸び悩む中小企業の資金需要

- 全国中小企業景気動向調査の結果より -

吉野 瞳

### ポイント

- 信金中央金庫 地域・中小企業研究所がとりまとめている全国中小企業景気動向調査の結果をもとに、中小企業の「借入難易度判断DI」をみると、最近の景気回復傾向に合わせて、「借入が容易」と回答する企業の割合が増えている。
- 「借入が容易」と回答しているにも関わらず、実際に借入を実施した中小企業の割合は増加していない。中小企業のコメントからも、新たな資金調達には慎重な見方が目立っており、資金需要は伸び悩んでいる。

### はじめに

2016年1月に「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」が導入されるなど、金融緩和が強まる一方、中小企業の資金需要は高まっていない。

そこで本稿では、第163回全国中小企業景気動向調査に基づき、中小企業について、「借入難易度判断DI」推移を概観したうえで、実際に借入実施した企業との差に焦点をあてる。

### 1. 改善続く中小企業の借入難易度

中小企業の民間金融機関からの借入の容易さを測る有効な指標として、「借入難易度判断DI」がある。この「借入難易度判断DI」は、借入が「容易」と回答した企業の割合から「難しい」と回答した企業の割合を差し引いたもので、数字がマイナスになると、中小企業にとって借入が「難しい」という回答の方が多いとみる。

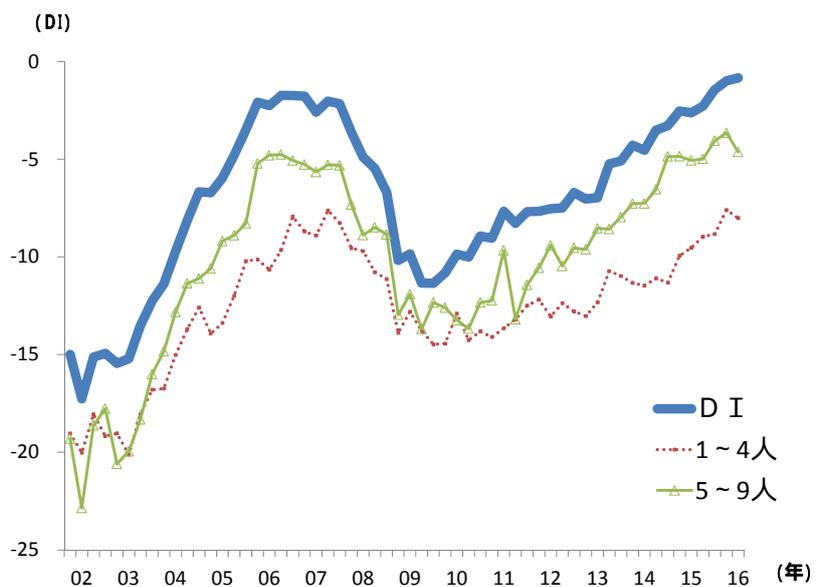
信金中央金庫 地域・中小企業研究所がとりまとめている全国中小企業景気動向調査の結果をもとに、中小企業の「借入難易度判断DI」を時系列で示すと、図表1のとおりとなる。2008年のリーマンショックの影響による景気後退期に、一時的に「難

しい」と答えた企業の割合が増加したものの、2009年の中小企業金融円滑化法の施行に伴う資金繰りの改善やアベノミクス以降の景気回復を受けて徐々に借入がしやすい状況になりつつある。従業員10人未満の小規模企業においても、相対的に遅れはあるものの、緩やかに改善している。

### 2. 借入実施企業割合は横ばいで推移

中小企業にとって借入が比較的容易な環境になる一方、その資金需要は伸び悩んでいる。

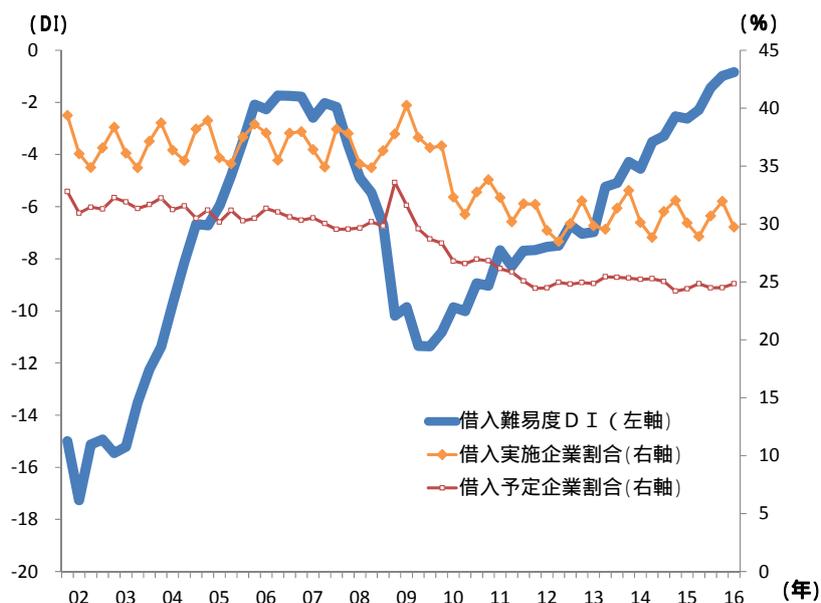
(図表1) 中小企業の借入難易度判断DI(容易 - 難しい)



(備考) 全国中小企業景気動向調査をもとに信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

中小企業の「借入難易度判断D I」と「借入実施企業割合」の推移を併せてみると(図表2)借入しやすくなりつつあるなかで、実際に借入を実施した企業が増えていない。中小企業から聞き取り調査している調査員のコメントからも、中小企業が借入に慎重になっている姿勢がうかがえる。(図表3)

(図表2) 中小企業の借入難易度D Iと借入実施企業割合



(備考) 全国中小企業景気動向調査をもとに信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

### おわりに

本稿では、中小企業にとって借入が「容易」になる一方で、実際の借入実施にまで結びついておらず、資金需要が伸び悩んでいることを概観した。

2017年4月に消費税増税が控えるなど、中小企業の経営にも一定の影響が見込まれるなか、今後とも、中小企業の資金需要の動向には注目していきたい。

以上

### (図表3)

#### [資金需要についての中小企業のコメント]

- ・機械の老朽化が進み、設備投資の必要性がでてきた。しかし、借入について慎重になっている様子である。(コンクリートブロック製造 山形県)
- ・ものづくり補助金を活用し、12月に設備の入れ替えを実施。生産性の向上が期待できる。(和菓子製造業 北海道)
- ・先通しが見えない状況であり、借入は検討しにくい。(総合建設業 大阪府)
- ・販売用不動産の売れ行き悪く、また貸家も老朽化しており改修も必要となる為、今後、資金需要も考えられるが、現状では借入を発生させないように社長等役員は考えている。自己資金にて対応予定。(土地開発販売・貸家 三重県)

### (参考)

#### 第163回全国中小企業景気動向調査の概要

1. 調査時点: 2016年3月1日~7日
2. 調査方法: 全国各地の信用金庫営業店の調査員による、共通の調査表に基づく「聴取り」調査
3. 標本数: 15,890企業  
(有効回答数 14,485企業・回答率 91.2%)  
有効回答数のうち、従業員20人未満の企業が占める割合は72.2%
4. 分析方法: 各質問項目について、「増加」(良い) - 「減少」(悪い)の構成比 = 判断D.Iに基づく分析